



「生活困窮・ひきこもりから、  
社会参加・就労への次の一歩事業」

活動報告書



特定非営利活動法人フードバンクぎふ

独立行政法人福祉医療機構  
令和6年度(補正予算)社会福祉振興助成事業



## (1) 対象者の活動機会の創出 **～サポーターと共に活動する～**

### ・フードバンクぎふ本部及び各地区での活動

野菜の袋詰め、精米やお米の選別作業、食品の運搬、  
食品庫の整理、郵便物の発送作業など

### ・連携団体の施設等での活動

落ち葉掃きや施設の掃除、除草作業、野菜の収穫や運  
搬・袋詰め、子ども食堂のお手伝い、郵便物の発送作業、  
不要物の処理・掃除など



▲郵便物の発送作業のようす

※対象者には、助成金から食料品、当団体から謝金をお渡ししました。

## (2) 内部研修会の実施(2回)

事例報告や交流を通して、この事業の意義を理解し、サポーターとして大切にすべきことを学ぶ。

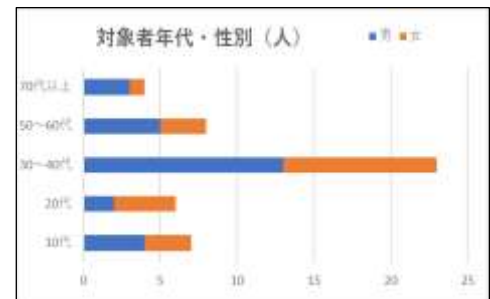
## ■事業内容・成果

### (1) 対象者の活動機会の創出

4月～3月までの1年間で活動に参加した対象者は46名  
(昨年は76名)、延べ人数は409名(昨年は330名)に  
なりました。昨年よりも継続的な参加者が増えたことになり  
ます。

継続的に参加することでサポーターとのつながりもでき、少し  
ずつ自信を持てるようになってくる様子が見られるようになり  
ました。

年代別、男女別の人数は右図のようです。昨年度から継続  
して参加している方もありましたが、今年初めて参加した方も  
21名ありました。連携したNPO法人キッズスクエア瑞穂の  
『不登校の親の交流会』で、この取り組みを話題にもらえ  
たことで、10代・20代の若者が増加しました。



▲配布用のお米の袋詰め作業に  
取り組むようす

## ～昨年を上回る実施回数・時間～

実施回数は全体で217回(昨年は205回)。総活動時間数は881.5時間(昨年は759時間)。

1回の参加人数は1～8名。サポーターと1対1で活動したり、何人か集まって一緒に活動する中で交流  
がうまれたり、様々な活動の形がありました。

活動の内容としては、当団体本部での食品や野菜の袋詰め、配布する食品の仕分け作業などが最も多  
く、また、各地区での食品の引き取り作業や配布の手伝いなども多くありました。

他団体との連携としては、昨年のNPO法人キッズスクエア瑞穂(食品仕分け、郵送作業、農園の手伝い)、  
一乗寺(庭の除草や本堂の掃除など)、岐阜別院(落ち葉掃除)、等に加え、新たに、はだしっこ保育園(園  
庭の除草、窓ふき、床掃除)、NPO法人リサイクルロンドぎふ(家屋の掃除)、善光寺(落ち葉掃除)等の協  
力が得られたことで活動の場と内容が広がりました。 ※次頁の表 参照

## ●事例の紹介

【活動場所・回数・時間数】 ※昨年度との比較

### 【事例① 次の参加者に、 サポーターとして教える側へ】

50代の男性Hさんは、無口で人と目を合わせるのも難しく、なかなか仕事につくことができなくて、フードバンクの食料支援を受けていた。「お礼が少しできるので、よかったらフードバンクで作業を手伝ってもらえませんか?」というサポーターの声かけに答えてもらえて、定期配布の水曜日午前中に野菜やお米の袋詰めに来てもらえるようになった。

毎週参加する中で徐々にフードバンクが自身の居場所ようになってきて、年度変わりで助成金が途切れ謝金が払えない時でも、毎週来て、お米の作業をしてくださるようになった。テキパキと作業ができるようになり、新たな参加者にお米の袋詰めの仕方を教えながら作業をすることができるようになった。

3年目からはサポーターとして活動に協力いただくと共に、フードバンクでの作業経験を生かして、市場での仕事を見つけて働くことができるようになった。短時間勤務ではあるが就労につながった事例である。



▲毎週水曜日、新しい参加者に教えながら、精米とお米の袋詰め作業に取り組むHさん(右)

	場所	2024年度		2025年度	
		回数	時間数	回数	時間数
当 団 体	本部	70	277.5	72	344
	大垣市内	11	66	2	7
	海津市内	26	64	21	55
	各務原市内	41	70.5	47	72
	関ヶ原町内	4	7	2	15
	羽島市内			7	15
	その他	3	11		
	計	155	496	151	508
他 団 体	NPO法人キッズスクエア瑞穂	13	102	23	131
	一乗寺	13	70	19	119.5
	西濃法律事務所	8	38	9	42
	たま農園	6	13	4	8
	岐阜別院	2	20	1	6
	和っとひろば@西地区	4	4	0	0
	垂井町府中営農組合	2	8	0	0
	白鳥ファーム	1	7	1	5
	清蔵寺	1	1	0	0
	はだしっこ保育園			3	20
	NPO法人リサイクルロンドぎふ			3	32
	善光寺			1	4
	静里営農組合			1	4
	その他 農園・畑			1	2
	計	50	263	66	373.5
		205	759	217	881.5



▲作業の後は、サポーターと一緒に  
お茶とお菓子で交流タイム

### 【事例② 両親の死後 無気力状態からの脱却!】

市の社会福祉課からの紹介で当団体を訪れた40代男性Wさん。20年ほど無職で両親を頼りに生きてきたが、両親の死後、無気力状態で過ごしていた。電気や水道が止まり、所持金もほとんど無いが、両親が残してくれた家や車やバイクがあるので、生活保護は受けられなくて、「まずは食料支援を!」ということだった。

時間があるなら、少しフードバンクの活動を手伝ってみませんかということで、倉庫の整理や物品の運搬などを手伝い、少しだが謝礼を受け取ることができた。その後、一乗寺での掃除などにも参加し、徐々に元気が出てきて、生活が変化していった。服を着替えて洗濯ができたり、お風呂にも入れたり、床屋にも行けたり、車を売ることができたり、バイクにも乗れるようになった。その後、短期のアルバイトにも行けるようになった。次は、ちゃんと就職がしたいと就活中。この事業での短時間の活動の積み重ねが、効を奏した事例である。



▲ブロッコリーの収穫作業に  
取り組むWさん(右)

### 【事例③ 初めてのアルバイトへのスモールステップ】

中3の時から不登校気味で通信制も考えていたが、全日制を選んで進学したが4日間登校して行けなくなったB君。食欲が落ち、腹痛の頻度が増え、口数も少なくなっていた。その後、後期から通信制への転入が決まった頃から表情が明るくなり、アルバイトに興味をもつようになった。既に友達がバイトをしているという焦りもあったようで、自分で求人を探して応募した。

1か所目は、研修1日目を終えて行けなくなり、親御さんが制服を返しに行った。

2か所目は、面接後に不採用。

3か所目は、オリエンテーションとバイト1日目は無事終えたが、2日目から行けなくなった。

4か所目は、面接で「店長さんに全部見透かされていた。」と、自ら辞退。「こんなんでバイトできるのかな。」と落ち込んでいたので、親御さんは「焦らなくてもいいよ。」と伝え、「バイト活動」は小休止。

それから半年経った頃、サポーターYさんが、不登校の親の会でこの話を聞き、「お寺での掃除があるんだけど、B君にどうか。」と声をかけた。知らない人の車に乗って、初めての場所でやったことのない作業をするという、本人にとってはハードルだらけのこと。でも、意外にも「行ってみる」という本人からの返事。お寺での作業の次は、畑仕事の手伝いやNPO法人キッズスクエア瑞穂での事務作業など計9回参加。自信が持てたのか段々表情が明るくなってきた。

その後、自分でアルバイトを探してきて初採用！初めてアルバイトの面接を受けた時から1年が経っていた。その後、WAM事業での活動は卒業し、そのアルバイトを半年以上継続している。



▲ミニ耕運機で畑を耕すK君

### 【事例④ カレンダーに予定が書ける喜びを経験】

専門学校卒業後、長くひきこもっていた20代後半の男性Kさん。サポーターOさんが数年にわたり、何度訪問してもなかなか関りが持てなかった。

この事業を開始した2022年、Oさんのねばり強い働きかけにより初めて本部での野菜の袋詰め作業に参加。長く伸びた髪で、人と話すことなくうつむいての作業。しかし、参加できたことが奇跡的だったとOさんは話した。

Oさんが送っていった帰り道、「コンビニに寄りたい」と言って、初めて自分の労働で得たお金で母親の好物を買って帰ったとのこと。

その後、何回目かで参加した時、ものすごく久しぶりに床屋に行くと大変身！

変身後も、Oさんに支えられて活動を続けるうちに、毎月2回の活動（コストコパンの引取りと配布、生協の生鮮食品の引取りと配布）が定例の活動になっていった。

4年目の今年、Oさんが病気で入院。もう来られないかと心配していたら、以前に紹介してもらっていた同じ地区の他のサポーターNさんに、「今日、ぼく手伝えます」と自分から連絡を入れて、Nさんとも活動ができた。入院していたOさんはそれを聞いて、Kさんの変化と成長に感激。

家からなかなか出られなかったKさんが、カレンダーに予定を書き込める事がうれしいと話し、毎月2回の食品の引取りと配布が自分の役割となり、自分から他者に働きかけができるほどの自信となっていったことは、本人の頑張りはもちろん、この支援事業の仕組みのよいところであり、それを生かして4年間にわたりサポーターがねばり強く関わった成果である。



▲初めて活動に参加した頃の様子



▲コストコパンの引取り作業をするKさん

## 【事例⑤ いつの間にかフードバンクのことを説明できるように】

県の社会福祉協議会の就労準備支援事業で働く体験ができる場所を探していた30代の男性Aさん。フードバンクはどうだろうと来てもらい、毎週水曜日のお米の袋詰めを体験。長時間の作業は難しいとのことで、毎回1時間半の作業に1年間来ていただいた。

1年間の就労準備支援事業のプログラムが終わってからもフードバンクに来たいという希望で、その後WAMの事業で活動を続けた。

先日、県職員の方々がフードバンクの現場でボランティアを体験したいと来訪された時の事。スタッフも忙しかったので、このAさんに「作業の仕方を教えてあげてね。」とお願いしてスタッフは他の作業をしていた。

その後、スタッフが県職員にフードバンクぎふのことを色々説明しようとしたら、「それはAさんに聞きました」「それももうAさんに教えてもらいました」と。

普段は無口で人と話すのが苦手なAさん。この事業で定期的に通っている中で、県職員に説明できるほど当団体のことをわかってきていた事に驚き、頼まれたから自分がやらなきゃと思って頑張ってくれたことにスタッフが感激。

就労準備支援事業の1年間だけではここまで変化することはできなかったので、この事業で活動を続けた成果を感じた事例である。



▲毎週水曜日、お米の袋詰め作業に取り組むHさん(右)

## 【事例⑥ 粗大ごみがあふれる荒れ果てた家を、みんなで再生！】

岐阜別院での清掃作業に参加していた対象者の中で、「お寺の掃除より自分の家をどうにかしないと…」と悩んでいた50代男性Yさん。母親が30年前に亡くなり、父親と2人で柿を出荷して生計を立てていたが、父親が高齢で施設に入ってから、自分1人では柿栽培もできず、家の片付けもままならず、荒れ果てる一方で自分だけではどうにもできなくなってしまったとのこと。食料を届けていたサポーターMさんも、訪れる度にこの状態をどうにかなくてはと気にかけていた。

今回の事業で、別角度からYさんを支援していたNPO法人リサイクルロンドぎふと連携することで、Y家再生のきっかけを作ることができた。サポーターのMさんはもちろん、リサイクルロンドぎふのスタッフや、共に活動している仲間(対象者)もY家の掃除に協力してくれることになり、対象者とサポーター合わせて10人ほどで、3回にわたり不要物の処分や掃除に取り組んだ。

「これまだ使うかもしれん」と、なかなか処分できないYさんに、仲間が「そんな事言っとったら片付かんよ」と声をかけながら、少しずつだが片づけが進んでいった。まだまだ、道半ばではあるが、徐々にこれからの生活に目を向けるようになってきたYさんからは、「皆さん、ありがとうございます。」という言葉が聞けるようになってきた。

2回目の活動が終わった時、Yさんの叔父にあたる方から、サポーターのMさんに、「自分も気にかけているが、親族だとすぐケンカになってしまって、なかなかうまくいかない。こんな風に地域の人達に助けられて、涙が出るほど嬉しい。」という連絡があった。

まだ、今後も継続的な関りが必要だが、社会的孤立を解決して行くためには、こんな風に地域の人たちを巻き込むことができる仕組み作りが必要だということを改めて感じた事例である。



▲倉庫にうず高く積み上げられていた物を、中味を確認しながら分別

※事例で紹介した皆様には掲載の許可をいただいています。

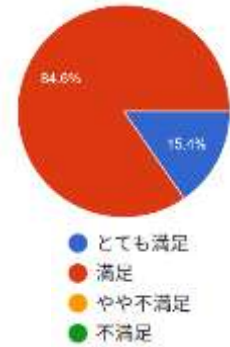
## ●サポーターの協力があってこそその活動

協力いただいたサポーターは 39名（去年は 46 名）。のべ人数としては 276名（去年は 240 名）。活動終了後、18名のサポーターからアンケートの回答をいただきました。活動について、すべての方が、「とても満足」「満足」の回答。

対象者の送迎や、活動の段取り、道具の準備、休憩のお茶の用意など、心を配っていただけたことで、対象者も安心して活動できたと思います。

※サポーターには助成金から謝金をお渡ししました。

Q 対象者と一緒に活動してどうでしたか？



## ●サポーターの感想や、対象者の変化で嬉しかったことなど

- ・一緒に作業をした対象者が、その後新しい事に挑戦をしている話を聞く事ができてとても嬉しかった。
- ・対象者同士、顔を合わせる度に笑顔が増え交流が見られた。お休みされると「今日〇〇さんはどうしたんかなあ?」と心配する場面もみられた。
- ・対象者がアルバイトできるようになったり、初めて勇気を出して自分で運転して活動場所まで行けるようになったり、積極的に次の活動に参加したりなどの変化を見ることかできた。
- ・当初は顔色も良くなく表情も元気なかった子が、日に日に元気になっていく過程を見られた事。
- ・初めは口も利かず、笑顔も見られなかった対象者が、毎回話しかける事により笑顔で話すようになったことが嬉しかった。
- ・関わった方で、社会復帰された方が 2 名、本当に嬉しく思います。

## (2)内部研修会の実施

### 1 回目 2025年5月31日(土) (総会と同日開催)

参加者48名。今回は、去年のWAM事業の取り組みの振り返りをして、今年度の取り組みの方向・方針についてサポーターの皆さんの共通理解を深めることを目標に、グループディスカッションを中心に行いました。昨年、取り組んだ各地域のサポーターが、各グループの中心になって話題提供や取り組みの工夫などを伝え、今年度の取り組みへの意識を高めてもらいました。

### 2 回目 2025年11月24日(月祝)

参加者47名。講師として、岐阜県社会福祉協議会生活支援課主任の松岡拓弥氏に「就労準備支援事業(生活困窮者自立支援事業)について」講演をいただきました。就労準備事業については、いろいろな機関や団体とフードバンクとの連携の形があることや、その中で気をつけていることなどがわかりました。

講演の後は、小グループに分かれ、講演の内容を深めると共に、自分たちの活動に生かしていける事について交流できました。

※研修会については、2回合わせて100名の参加を目標にしていました。参加者は計95名でしたので目標をほぼ達成できました。



▲講師の松岡拓弥氏



▲交流会 会場のようす

## ■ 助成事業のまとめと成果

『ひとり』じゃなく、『誰かと一緒』が大切・・・

数値目標を、実施回数200回、対象者のべ参加人数350名としていましたが、実施回数220回、のべ参加人数409名（実人数46名）と、目標値を大きく上回ることができました。実人数は目標の80名に比べると少なくなっていますが、同じ方が、継続的に参加したことで、次のステップに進める事例が多く報告されたので、プラスの成果だと感じています。サポーターとしては39名（昨年は46名）の方に協力していただきました。サポーターさんも同じ方が継続的に関わっていただけました形になりました。

団体内の活動では、食品の引取りや配布、袋詰めなど手間のかかる作業に様々な年齢層の方々に参加していただき、それぞれが『次も頑張ろう』とやりがいを持って取り組んでいました。継続して参加することで、自然と輪になり交流しながら取り組む事は、生活の活力になり、生きる力になっていくと感じました。

他団体との連携としては、NPO 法人キッズスクエア瑞穂では、不登校の親の会での広報をきっかけに、不登校やひきこもり傾向の若者の参加が増えステップアップにつながる事例が多くありました。一乗寺での活動も住職やお庫裏さんの理解もあり、継続的に活動の場を提供いただけたので、安心して参加できる活動になりました。

新たな連携としては、はだしっこ保育園での除草作業や窓ふき・床掃除など、また、NPO 法人リサイクルロンドぎふとの連携で対象者の家屋の清掃という新たな活動にも取り組むことができました。

## ■ 今後の課題と取り組み

岐阜県の孤独孤立対策官民連携事業で2年間、WAM 事業（補正）で2年間、計4年間継続して取り組んだことで、様々な成功事例を経験することができました。その中で、対象者のモチベーションを上げ、維持するためには、食料品、また、謝金が非常に大切だということを感じました。頑張ったことを評価してもらえることで、次も頑張ろうという意欲につながっていきます。

また、『はじめの一步』の支援は、年齢が高くなってからではなく、できるだけ早い時期から取り組んでいくことが大切だと感じたので、各地の子育て支援団体との連携も進めていけたらと考えています。

当団体が今後もこのような取り組みを進め、地域に広げていくためには、対象者にもサポーターにも謝礼が出せるよう、助成金や寄付金を継続的に獲得していく事が必要です。今回の事業の活動報告書を企業や団体に示して、理解と支援が得られるよう尽力していきたいと考えています。



▲本部 自然に輪になって野菜の袋詰め作業



▲一乗寺での休けい時間

『ひとり』じゃなく、『誰かと一緒』が大切・・・

特定非営利活動法人フードバンクぎふ

<http://foodbankgifu.jp/>

〒503-0034岐阜県大垣市荒尾町1490-3 TEL0584-92-1400 [foodbankgifu.jp@gmail.com](mailto:foodbankgifu.jp@gmail.com)

